

小精度日誌

昭和十年十月以降

特別

14

1919

621

35

40

45

50

小精舎口誌

天和十年十月廿六日

十月廿六日

今朝光越後く辰墓の巻出者、縮煙漫草
 脱箱を箱全郡、書物念望しく送る、村山秋
 洞の為の幅運に赴す、中山屋方とて回附の
 西村真次執筆、の山屋様傳の校正招と淡
 人の時を移す、斯文今の振る、何念今も三
 末、歎と比る、付山田心、引湯、只とて安

四善坊印切三十二千五万圓寺造代善坊方
又島三ノ島海、上田、熱河海、龍寺造主の
字の所、生五丁田、お後、午後、向、丸、
ルを、坊、古、玩、を、持、て、神、く、ま、

二十七日

日

雨九時雷鳴り、向、風、益、と、甚、し、來、賑、美、村
來、活、能、保、を、筆、す、共、日、印、刷、大、橋、之、ま
今、社、社、祭、為、成、つ、き、十、月、分、相、持、狀、別
十一月一日圖書祭の事、内、刊、の、田、下、河、流、寺、功

榎原製

古、時、間、法、才、池、某、早、稲、の、七、拾、五、元、を
頼、ま、し、一、過、池、の、漲、の、午、後、概、高、の、百、元
祭、の、い、ち、も、風、の、為、め、行、か、ず、午、後、七、雜、紙、を、筆、
し、七、時、を、費、す、新、夕、刊、の、部、の、大、出、大、七、報
す

二十一日

晴、辰、十、時、歌、為、後、座、の、飯、内、道、遠、銅、像、除、幕
式、二、時、又、寺、の、半、時、と、口、生、命、信、後、今、社
二、主、客、午、時、を、其、の、七、時、也、不、在、中、鐘、田

招進母過、高柳市極静と云柿を送る事、斯
文今も是儒并極富以公給る、まじ其他の印
刷物を贈り、東の、難録を著し、七時と移す。

二十九日

所、好む道名、語を傳養して、ある柳田、
名、道の名、と、竹岡、来り、一時、台流す、
こ、山名、高、山陽の是、運を、
と、村山、山、駿、を、
山陽の、山、院、と、出版、

棟原製

お、
次、
元、
村、
前、
御、
一、
五、
也、

到、此内、井内保也、余、文、墨、島、漢、の、細、話、
を、叙、す、文、之、善、代、四、月、也、

三十日

時、加、田、道、法、と、未、而、臨、木、直、一、身、の、自、述、也、
同、文、業、教、育、と、題、す、平、山、を、主、と、西、南、
教、育、の、滋、福、池、に、我、地、ら、の、報、社、と、名、
を、付、し、自、著、新、報、を、對、し、紙、を、紙、に、換、
じ、み、り、と、使、し、持、し、と、示、す、十、時、教、育、の、
じ、り、と、大、き、良、香、垣、輪、馬、春、日、古、鏡、天、下、也、人、

榎原製

縁、の、換、并、に、鉛、を、粘、土、と、練、り、の、内、紙、粘、土、
坂、田、左、尾、に、領、し、七、帖、に、午、後、粘、土、を、筆、
す、斯、文、人、と、し、其、出、方、亦、昌、と、い、ふ、同、く、来、月、
十一、日、神、田、川、に、故、和、田、若、吉、の、追、悼、會、と、開、
く、日、つ、き、余、良、田、松、本、三、人、が、記、入、と、す、
内、紙、を、粘、土、に、分、夜、九、時、迄、紙、後、を、切、
す、

三十一日

時、朝、来、小、屋、村、伝、の、原、村、と、淺、草、に、廿、二、日、中、

大印書格鏡次も各々味増減を考へ
又此時に来し書を従て出せ給生に也を購ひ
高崎屋公を以て貸して伺ふ。早大出版部へ
書換の爲め株養をや。此邊は兎の三味線
二千重浪の名を命し浪を乞ふ。是れ考
に幅を字三つ取らせり。

〇十一月

一日

榎原製

時、朝来山陰梓送事、概則を著し、西村
真次の巻末に供す、吉田山夏と題
の菊は一盆と定めて来り、真冷中大印書
山房に伺ひ、高橋鏡次に伺ひ、中山房
より國民百科大辞典才七巻配本、午後
文の巻を以て出せ代五十回抄、日本橋
迄も散策し、七時へ、植木觀二人来り、度
の手入を始む。庭園も著す、今夜熱田宮
清逸庭の御儀あり、中継ラジカは其の次
弟を放送

二日

時、漆山順治、簡しと事しを伺ふ、回下改改の爲め、額
面数紙揮毫、植木職二人来り、阪口献主来り、白
根園寺領入り、之を懸面の神主毫を、雪ふ乃らるる
七葉下、即日、軍中の七男結婚するも、二十一日
車馬分領、招待の也、此列の相馬清風と
止若、道限りしと、客七日、石川勝
流と来り、先日、餅所、前日三福、餅し、此
谷公園の菊を、観て物々、又二三紙揮毫
稲門の志、分幹す、小島春志と、物と物

榎原製

ふ、飯沼、また、次、中、と、田代、亮、外、是、揮、毫、等、
た、いと、な、る、と、し、年、と、起、問、理、髪、就、寝、所、
の、施、事、と、後、ら、

三日

日

時、以、次、の、節、小山武支、の、為、物、毫、毫、四、枚、紙、五
卷、十三回、忌、法、要、と、事、完、定、三、巻、お、二、打、九、時
行く、後、任、後、雅、叙、園、に、招、え、午、前、の、興、を、
受、く、余、五、巻、の、遺、墨、を、携、帶、し、之、を、席
に、掲、げ、記、叙、の、為、り、一、幅、の、道、徳、漢、を、
夫、雅、叙、園、の、僧、衆、を、觀、る、今日、佐、婚、披、公、録

六日

雨、亡北堂十七回忌辰、下り僧あり、後経、祝放
二物と送り、是即胎を飯村俊二に漸之を奉る
お馬所瓜の隠業、を授け、中山なる、
梓保の病終、京好列来、丹美、原、
法、
孝、
高、
今、飯村、秀、を贈る

棟原製

七日

時、松井郡沢村崎雄、
身、
物、
小、
め、
し、
と、

八日

時、時、千後都下降灰ありて、か分利の江をりを見
小浅川、燦破の考の三十五里のありき、心河を思ひ
ありて、説文令、振高、堅うりき、未出、河州、松
使、未出、且、新、若、を、定、を、身、の、後、秋、全、而、因、引
出、す、所、何、が、氏、令、時、所、ら、と、難、の、味、時、法、と、定、を、身、を、集
の、高、を、身、を、三、の、前、す、園、了、二、人、未、の、文、三、す、す、深
子、と、引、り、勢、急、山、を、三、橋、岳、の、淺、意、然、と、打、耳
の、打、馬、海、原、ら、と、未、出、先、を、餅、少、を、散、菜、下、谷
の、凡、目、に、飲、し、丸、じ、の、物、を、海、を、何、の、今、津、八
一、と、未、出、高、木、益、大、ら、と、と、歌、集、風、未、寺

棟原製

是しを寄せしもの、合津、く、及、品、別、を、後、す、村、皆
結、作、り、未、書

九日

時、高、木、益、大、ら、と、河、州、松、岳、の、海、也、と、思、は、る
園、了、二、人、引、つ、き、未、出、難、保、と、著、す、山、浅、河、後
の、考、め、相、毫、栗、林、の、家、祖、重、三、即、前、述、身、の、後
流、業、記、全、の、的、次、三、十、三、年、の、難、保、中、の、考、り
高、木、益、大、ら、と、栗、林、羊、一、と、郵、美、と、千、後、河、時
の、兼、上、空、と、柱、け、る、向、次、文、を、上、空、公、園、行、幸

六十年紀念懐古展覧会を又、今頃の東京府美術館也、拙宅後院に著す。

十日

日

所、初来宛紙を著す、此より毎頁次来坊白
著の出版を待た、此者市路整に首
大の心理を為政のよう也、あつた文三事、清
紙と語り替へ、同日二人、午後散策日
用品を購ふ、又、飯後下婢の家へ柿一
函利来、概井部以て来也。

榛原製

十一日

所、書物念望、我を出版志す、随筆の内
一編、即ち白懐、朝来考き、且、七部送、
山陽以て、拙、其を新送、柏崎西へ
注、文の味、唱、別、因、丁二人来、擁、煙、漫、著
の序、文を著す、洞、精、く、来、書、
此を著す、随筆の巻、紙、に、収、め、
二枚、有、物、展、望、社、に、郵、送、
店、の、故、和、白、著、未、之、と、
の、今、と、悦、す、唐、上、余、
返、掉、法、を、
此、日、同

人三十名来今酒次候り近懐迄をうらまはせ
況りし、切毛就寝胃痛を受、腹痛一七
止ま、曉に利り流体より二合許と吐く。

十二日

味相も家かこし睡つ、暈を振き、腹系す
病もよとよ、無熱入んも終日睡代を食り、
終日絶食、倦煙、夜不入、僅く湯を飲む。
和四速族あ二三の客あり、今とて、栗丸羊一、
来山、秋山所去し、坊の道、今の建碁式を行ふ

榎原製

あま内別より十二日午前十一時也、因丁二人来り

十三日

時、今朝始りて、今帝の朝おとと振つ、今打降る余
の隨着、奪苑を、今政魁よりき来也、因丁二人来り、今
赤欠二自若り、石灯を持来り、午後伊月、今西の
身、今別釜あり、今終日、今茶中、今在り、今吹、今
入酒三杯十一時過、今睡代を得ず、又三杯を飲め
戦、今茶、今完つ、今飯、今奉、今あり、今未、今書

明起床平生の如く、困丁二人引つ、き未の今
村隆、遠向と投す、龍奴を著し、大吹花族杉田
教一、死去、関節より来出、楠瀬日年の著也、為及
見利未、克を伴ふ、河右の三福、飲、心宅
後、法、時を移す、文三、陽子、法、皆、畢、日

時、刑未、終、終、と著し、中川、海、壽、村、山、此、し、四
の、辰、辰、し、来、の、あ、遠、の、遠、星、是、匣、二十三日

小野、桂、建、妙、胸、像、除、意、平、の、安、未、山、枕、列、の、四、月
二日、高、高、神、大、子、一、橋、海、舟、に、於、て、余、が、海、法
海、由、橋、士、と、憶、心、を、收、め、此、の、海、法、日本圖書
領、協、今、を、し、出、段、を、教、導、を、照、り、来、の、段
口、献、吉、身、法、改、上、弘、存、来、の、例、の、注、射、を、受
く、中、央、公、論、の、記、者、身、法、日、本、文、藝、地、辭、典、
ぬ、ち、へ、き、大、隈、辰、の、吉、蹟、日、の、著、業、心、を、需
む、午、後、七、時、終、を、著、し、四、時、と、も、あ、回、部、の、複
芝、の、又、今、と、時、を、例、の、る、能、法、に、時、を、移、し
海、法、後、物、也、海、法、終、し、し、海、金、十、四、日、来

初来むき

十六日

晴、解未始、和崎西巻へ味曾代、四日、廿二、
舞送、羽鳥の、杉鏡、法布、及、去、日、伴、未、始、而、人
と、物、を、贈、り、十一、時、二、人、を、付、ひ、經、生、の、飛、鳥、に
利、り、酒、會、一、午、後、二、時、別、り、下、谷、入、田、り、の、塚
内、未、之、入、を、え、る、の、う、ら、と、八、月、に、葉、子、を、贈、り、て、
、落、合、お、在、の、留、守、兵、村、上、り、林、橋、を、贈、り、果、の、
五、時、杉、井、郡、迄、と、共、と、あ、り、行、志、保、原、に、村、け、る、事、田


榎原製

夫東の宴に赴く

十七日




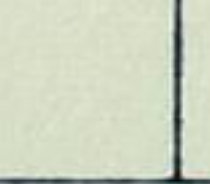
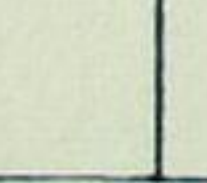
日

雨、今朝九時十分、是、汽、車、う、り、て、熱、海、に、赴、く
車、中、多、く、の、口、人、に、合、す、皆、熱、海、に、林、く、と、り
也、八、日、の、夜、一、時、有、志、遠、途、に、お、り、其、上、城、段
工、の、報、告、を、あ、り、格、日、葉、茶、茶、館、除、冬、祭、を、行
い、ん、と、す、也、十一、時、熱、海、着、先、の、道、も、
未、止、人、も、取、ひ、十一、時、半、式、に、臨、み、先、が、
墓、前、に、後、任、焼、香、墓、域、の、立、後、の、一、面、村、石、を、以、つ

結構巧て心え、崖らの江に墓側をも全出する
清水流ん後ち三筋の風改り、早景墓礎の墓
二面と大ナヤ柄の下に建てる、大筋の巨礎也
神官祝詞も改べ陰幕やと行めて式辞其等
あり、端々式や一日時入る、天赤瓦とあひまを
皆くテント内に入る、午後一時式終り、可
寺に詣り、お谷の方の定三午時迄も喫し、双杯余
とゆめを三時十五分の汽車と接し、文刻の
也

榎原製

十八日

時、朝来於ぬき着き、藤田貞敏の墓跡に
後く赴く、つぎ一二筋の墓刺と並ぶ、跡を
傾塚三彦坊より、身取、新島田の市橋林内
宏と梨栗の庭と繋ぐ、来り、午後迄を伴
ふと散策、遊園下一人来り、合は
ハ一と来り、中史の論比の文化辞典、取む、
大隈公の文由他傳を著す、夜未也

十九日

雨、朝来大限長文の巻と書きたる、而も流古来
話、領保彦丹中々、未書千巻、一杯を併け
碎後、高き巻の巻二十枚の色紙押書、山
陽、丹中々、金澤、飯の、一、一回、を、並、り、起
同、又、成、之、中、の、考、類、三、枚、幅、二、押、書、毫。

二十日

晴、園丁二人、丹中々、大限長文化、侍、小、福、と、文、巻
辞典、に、故、古、ら、ん、中、央、の、命、の、部、送、信、長、良
一、ら、一、ま、り、押、書、毫、一、幅、と、並、り、の、筆、山、書、三

榎原製

晴、雨、の、書、意、前、書、法、の、巻、巻、を、初、め、
小、島、孝、吉、(福、門、の、名、會、館、子)、(未、書、法、印、月、生、余
社、に、信、保、下、和、田、若、未、文、来、訪、の、一、回、
長、ら、り、を、復、書、の、初、人、筆、佛、書、を、贈、り、
三、川、信、長、と、一、押、と、送、り、来、り、

二十一日

晴、和、の、萬、葉、忘、辰、ら、り、を、香、を、送、り、並、し、物、列
来、才、一、枚、り、し、預、金、の、用、引、出、す、先、を、併、小
七、紙、生、日、本、格、に、物、を、贈、り、高、崎、尾、名、巻、を、領
し、物、の、三、枚、紙、を、書、き、今、夜、東京、今、飯、し

廿月廿四日一馬場の坊坊技師の家に招へんとく
新巻のふぶ流法を、坊内達達(画更)の言
すことつがの一幅を割る事す。東久一寺母難由
と難ふと扱く事。

二十二日

成園三人来り、相未客より出ぬ没歩上宅
も後者(判り)曰、此屋小臥の辰月(酒飯
一物書法難法と讀み、語を録す)

榎原製

二十三日

成園下より、成園彦孫生田七(中)と、彦孫
舎の思ひ出(を載)る。難法を客也。其(中)は、
後(小)成(村)長(物)係(除)奉(命)を(行)ふ(先)ち(持)入(の)
遺(子)保(子)也(史)記(元)々(と)上(京)有(り)き(大)隈(今)
館(を)考(へ)九(人)と(し)て(平)倉(と)共(に)保(子)
也(史)記(也)美(子)又(一)を(得)ひ(来)り(一)時(に)
今(彼)の(中)是(に)陰(幕)式(と)行(ひ)し(中)山(と)是(に)
坂(本)四(中)保(長)等(田)杉(田)文(お)の(祝)祈(有)り、
美(子)等(と)ら(る)人(新)刊(の)中(成)持(傳)と(領)の(式)

ホツくあり、関大らうき集武備入の下婢
高田とて来り

二十四日

昨日、浮金とらへ、江原の生魁走尾物冬、押巻
二枚折、厚紙并、二枚切、二枚老、つと、丁、二人、身、の、
領、海、彦、次、り、き、浮、取、川、取、切、物、を、送、り、
く、井、上、辰、太、ら、き、男、結、婚、う、り、し、十二月、十四
日、至、上、今、朝、に、祝、う、き、漆、山、順、法、も、来、公、敬
策、日、未、精、筋、と、物、を、贈、り、書、此、尾、西、公、を、酒
飲、し、七、物、く、は、物、宅、彼、心、切、押、休、を、讀、む、夜、未、雨

横原

二十五日

雨、因、丁、未、ら、朝、未、能、取、と、書、い、り、余、の、奇、福
を、ぬ、め、比、美、術、往、来、列、達、松、枝、保、二、の、計、に、振、束
巾、状、を、取、り、早、大、書、道、合、の、色、紙、二、枚
揮、毫、賀、田、五、次、朝、野、と、書、り、初、い、書、書、と、物
産、を、贈、り、午、後、七、時、外、を、筆、す、今、打、降、こ、
状、と、書、す

二十六日

昨日、献、吉、成、崎、為、碑、の、拓、本、を、持、り、来、り

贈る。上級部も印税四十圓七十六圓五錢取
境山寺。三月。書意。骨董。旋花。の。是。令
と書して。其。の。山。田。古。作。代。身。法。道。道。お。の
邊。墨。の。題。印。す。坂。井。の。中。紙。名。士
の。傳。の。と。其。内。早。大。書。道。今。の。生。委。員。の
押。是。を。其。の。午。後。教。養。二。三。抄。と。題。す。は。り
於。此。を。書。す。も。納。税。海。の。歌。舞。伎。座。の。陳。列。の
供。の。も。古。道。の。書。寫。物。是。の。

二十七日

榎原製

時、自身の略歴を叙し坂井氏らより、坂井
石塚下り、其後、徳川義親侯より、孝左文
庫、開館、披露の、ある、内、刊、列、は、十一月三日、の、新
記の、あ、井、忠、た、り、死、去、り、へ、き、吊、状、を、書、す、同、太
郎、が、絶、筆、早、編、の、を、注、論、の、云、を、外、に、北、城、新
報、に、掲、刊、午、後、旋、花、と、書、す、七、時、を、移、す

二十八日

時、今朝、二、時、五、時、降、雪、村、田、心、竟、と、早、の、夫、心
の人、と、橋、濱、末、板、壯、兵、衛、末、三、人、の、空、影、状、を

所へ来り、帯回を流り、山岸徳来ると余の地
書、橋の一篇を女子四海流本に註載
と需め、預金三百圓引出す、京都府小
野あり、西也、利、川内射、未出、十時
頃、噴霧、好、少量の血を咯く、廿日午前
朝、西の支合、咳血、を、おめ、の、也、立、
臥、其、血、何、日、取、上、来、り、無、熱、を、咳、と、
五、六、日、又、進、む、状、態、を、診、察、す、村、山
田、田、来、り、皆、不、息、取、上、り、ラ、ウ、デ、ン、注、射、を
受、く、

二十九日

時、無熱無咳、皆と表り、九時以後、上り
昨日と同様に注射を施す、此注射、睡薬を併用
日、昏、不、眠、也、右、症、流、来、り、未、出、右、症、を、診、察、す、
左、に、未、だ、便、秘、を、見、へ、不、利、症、を、ラ、ウ、デ、ン、注、射、を、
す

三十日

時、無熱、無咳、皆と表り、九時以後、上
り、右、の、皮、下、注、射、本、日、七、持、續、す、べ、し、と、

ふと断つて予の心腹にわがの故縁ありき
身の運財と云ふ。今次編年史才七巻配本今村
隆と云ふ余の陪筆二種各五冊列送。但し
入り数の便秘解を返り初めは七冊五七巻
と云ふ事と

〇十二月

一日

日

晴。秀彦もあつて武田上じも来書。石谷三
小本望三も来書。徳法翻漢魚卵を感す。

棟原製

武田上じも程々九物。各品を来書。記
す余の排毫を来めり也。余の陪筆を来め
り。書札展覧十二月朔。別送。夜未雨あり。
雷あり。

二日

晴。ふし床五日。夫二を頼む。語を理む。森脇
見書。三巻。茶中。小説を讀み。魚所を感す。早
大書道研究会。今も来書。又所記。能くも
弘文在待。實古書。目録。来。打止。物。二。面

五月午後伊月来、冷、甚深、夜行、
十六日大日本印刷会社株主総会の通牒
出、夜来雨あり、

三日

昨日午後、日方事務、
前日、増田義之、事務分、井上厚、
傍、切手を送る、村田正光、
社務分、委任状と署名、
来日、村山へ山陽陽返却、武田豊四郎、

榎原製

且つ備紙と云ふを、試寫を求め、
ソ備紙を贈り、
室、
五十四葉子一冊を字を、

四日

昨日、
降、
をを、
夫、

昨、林島三小助同市飯旅徳、余の隨筆
を遠載せんことを需む、金五兩の御銀を引出す
林、文忠の法を贈る、二四史を伴めて湯島に渡
し、余らをも異つて、安田文庫へも遠送す所
を、余らも、丹三にお二三余の法を聴て、是に
来り、余ら五時、余の法を贈る、余ら五時、
余ら五時、余の法を贈る、余ら五時、
余ら五時、余の法を贈る、余ら五時、

七日

榎原製

昨、阪口獻吉、本年漸やく、
此の法の終尾、二年方の摘要を記す、
二飯の同書、飯旅法、
を授かる、二の府をまつ、
今夜、
八時、

八日

而、松井郡流法、
ぬめり、
地甚く、

山吹流ら山口日坂山のうき愁のつき来者未十九
垣原正立一用志のつと未文の二時三葉花
部に喫茶のたのしみ小林儀とのたのしみ奈言はた
野々某の武皇まう庭と掃ひ細をたのしみ

九日

時辰朝来旅戯を著す法山吹流の簡
楠瀬恂来訪今津の二時三葉花
伏白羽此の久江城一物も能く来者今村隆
より来者文人墨客を候の序を做し来る

林河

新刊校友今又の海刻の盗防智徳普及今
より盗難防止の研究一冊を寄る

十日

時朝来旅戯を著す東流重出版部
考として三十日却手お冬且近攻と報す
あはれも来出垣内未文人夫証者に印す
藤田久赤草法小本儀の印の調を
十一時己をを能く白木卷に捲り日本橋
二物を贈るに候し更し上令北坂

物と辨つて論じ。

十一日

所々林取の事志路に技師を需め其の政
界往來社に日給。然海聚樂の札
並利未、旅取を著す。夫々墨岩と評し
印刷進め、その不慮を懼り今村へ郵送す。原
久一母其の久一が生るアシナカレニナと
トルストイ條を字の取、以て出子として未
真の種次り、塩川と辨り未の、互々

様原製

所々を考す、宛問伊月齋未發、トルストイ條
讀

十二日

所、トルストイ條を讀む、出游樂等、此在の如
く宛取也、略る能河昔大七箱を辨め又
丸を去る、固方を辨め、其所の三福に致し
て物、四五旅行に接す、中、村崎路、唯、近、職
紀念、品、字、所、重、川、北、破、山、草、の、音、在、り、る、(正倉
天心)の條を讀む、夜に入。

田清化の为り道遺遺墨二卷に記書五千
後降而雷と交り、江の東林と雜の塩川と
空を有る、吹發の酒一巻に記書、六回後之と例
と見たり

十九日

時給木くり子記と記の宗状と墨を、継志と二不
冬の道子と出する、大日本印刷会社本巻記由七
分金の分上り四十六回八十七三、銅板、その塩原
心正一田記と、おん人記と不冬一箇と記

藤原製

才、正倉院一権記と墨倉天心全集首巻を
そのとらるの、海歩、新而の三福と、飲下、及上
謝礼、伊月、匠、築洲、花、大工、平、間、代、後、今、花、祝、昂
二百回、計、四、百、回、掛、海、呼、り、花、方、と、記
書、贈、品、記、と、列、記、於、木、祥、重、久、米、刀、自、録、に
吊、状、を、書、き、う、新、而、の、飯、茶、子、と、記、記、を、塩、川
三、尾、利、達、龍、火、記、と、物、を、記、り、書、き、高、向、出、政
州、在、と、記、甘、香、和、利、米、餅、三、尾、儀、十、八、回、自、記、也
菊、墨、の、白、紙、今、と、平、の、記、書、又、八、尾、吉、と、記、也
記、の、出、政、の、つ、き、五、尾、利、米、六、七、五、尾、と、記、也

五時 皇宮在宮中 於今早大出御部の字を
二時 皇宮在宮中 田中恒平平以金子吉田六
江東天合

二十二日

日

西古比事三村山ぬしぬ 文行を横尾
交て有次、丹三兄弟田中恒平の
近刊進書 洋菜と進書、雅海と兼し
心と後有、丹吳原よりしり有る、大改松有
今より昔より一より昔より三つと也、恒平
士と恒平の進書と云、誠、聞くよりし、未書

棟原製

午後散策三つり巻と、恒平、三川恒平と物
と、賜り末、死するなり

二十三日

時、朝来恒平と兼有、森野美樹、植木松
の坊雪平南のふるを、村山秋浦の爲二恒平
平福百穂の非常小治と、後、茶井恒一(志)
の息、恒平恒平と兼有、山田恒平、早大
者送、今より平山恒一有り、押定、七と、平
後散策物を、恒平と物、西村之則文の、

吊状を以て、内田百治の遺書と後云

二十四日

此朝未言印(一)同者七拾外、寄回(五)
流(一)獻(一)未出丸(一)と拾(一)二三物
を焼(一)高(一)心(一)公(一)相(一)と拾(一)干(一)後
亦(一)回(一)者(一)と拾(一)外、栗(一)亦(一)半(一)一(一)と未(一)出(一)拾(一)外
と著(一)あり、又(一)刻(一)板(一)河(一)海(一)花(一)寺(一)の(一)傳(一)説(一)礼(一)と未
リ(一)差(一)無(一)を(一)お(一)奉(一)り、故(一)後(一)毫(一)の(一)傳(一)説(一)未(一)造(一)梨
果(一)と(一)寄(一)り、干(一)の(一)漬(一)合(一)本(一)の(一)買(一)集(一)外、
高(一)橋(一)鏡(一)流(一)と(一)堤(一)川(一)と(一)寄(一)り、

榎原製

二十五日

大正天皇祭

此、高橋の御書より、未言印と同者七拾外
干時先回付に在り、三福(一)心(一)堂(一)に(一)候(一)未(一)干(一)後(一)又
行(一)中(一)携(一)在(一)り、未(一)言(一)印(一)と(一)同(一)者(一)七(一)拾(一)外(一)
寄(一)分(一)と(一)候(一)外、此(一)書(一)田(一)方(一)未(一)流(一)去(一)り、此(一)の(一)餅(一)
別(一)未(一)書(一)お(一)奉(一)り、社(一)と(一)不(一)盡(一)意(一)望(一)石(一)川(一)三
四(一)中(一)書(一)也(一)と(一)寄(一)り、又(一)久(一)一(一)権(一)或(一)功(一)夕(一)判
文(一)行(一)也(一)の(一)評(一)價(一)成(一)り、流(一)類(一)二(一)千(一)五(一)百(一)回(一)一(一)三(一)行
寄(一)り、此(一)書(一)也(一)と(一)寄(一)り、又(一)久(一)一(一)権(一)或(一)功(一)夕(一)判
先(一)七(一)寄(一)回(一)付(一)り、今(一)合(一)七(一)未(一)言(一)印(一)と(一)同(一)者(一)七(一)拾(一)外(一)

官軍より奪取せられたる一文字を以て引取らるる事
同治七八年の日石を以て證する事ありまはるる事
わりの候に善く湯さんと大敵を主せしこと極め
ゆりぬる事ありし事也

井六

昨、ありしを以て入る事ありし候に檢出の圖書は
才、尚雜末文にて云、御山へき、圖書を檢出
し、集出の流傳を以て、未の無配を以て、
まゝと申出、併代辨入者、状を以て、

棟原製

午後、先回、付、散、平任、行、き、合、料、品、を、
お、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、
三四、の、お、お、想、望、を、後、お、お、お、
府、解、し、り、り、り、り、り、り、り、

廿七日

兩、官、令、一、確、し、り、り、り、り、り、り、
張、島、山、を、三、海、軍、の、大、作、お、お、お、
本、府、流、を、し、り、り、り、り、り、り、
と、同、步、檢、出、し、り、り、り、り、り、り、
後、出、し、り、り、り、り、り、り、り、

刊夫不孝想望を懐古和歌文三冊、朝鮮
賀田と、林橋刊未

廿八日

兩三押巻を扱き本日才二回同書を
前回分を併て三平月也、
清大物也、
丸心ハ物と輝ふて、
月七日歌島夜庭と扱き、
日守と、
若流本と、

榛原製

十年編寫

- 一 一七六〇年と迎ふ
- 一 一月三日夜(左義長)を放送す
- 一 定業日本社の囀と、
一 一編と、
- 一 龍吟社の草村時雄井上精二の赤坂陣あり、
扱え、
一 和四第を、
一 一二十キ及故、
一 本年の雑報と我多徳と、

のり

一 野村出洋漁樵問答の條幅表装完成

一 渡辺らららと淑金三十三回客をいふ

一 澤本典一死云

一 石川千代松甚清(冬夫)二月廿日生別式

一 雜誌「日本趣味」に「お兒の心境」とある

一 吉本早田吉翁碑の樹(海子)徳六ららら

りの往後了

一 並木元大らら死云

一 書函ららら江墨文(一)春行所ららら

榎原製

一 二月十七日予の誕辰あつて春城合と熱海へ別

き初めを冊那ト子ルと道(三)寺神社を詣り午

よ中余の今更に冊那ト子ららら就て所感を録す

熱海聚宴と正室の春城合ららら席上此歌

の庭園へ成島柳北の碑を建設見んことを

起す

一 二月廿二日白木屋講義中にて徒文社主催の

講演会に臨み日本趣味と講演す

一 英文大日本のあめ草(一)竹の一篇英譯成る

一 書物展覧にシンケキの及歌志らららとある

一 双雅房の随筆致味しる鳥漫法を定す
一 菊池惺堂 大石理因死云

一 二月廿八日午前十時廿分城内道邊旭海の雙柿
舎に柱を死云午後往西院以と葬儀を請し即

日帰京

一 中央公論の為日双柿舎物語を兼り又道邊
翁法書を定す

一 早稲田又その為道邊を悼むの文を定す

一 前島男死云 二月廿

一 藝術殿、道邊あると別の一編を定す、此

標原製

一 道邊も道邊に就ての執筆自伝を定す

一 中央公論に道邊の法書あり二回を定す

一 三月十日微恙に罹りて道邊病中

一 本病中、中、の書文の送る録を兼りて藝術殿
に定す

一 余は借金ありて唯一余の個人名義を以て
送らざる借入ある三、あるの文の送るの借入
を以て之の概も謝儀有り故に余が大陸
の同行三、ある田の預金を根拠ありて
送らざる余も、老を為自提儀送る二、ある

ハ文の協定に格を引多ク實現するにこそ大
限令を出し之を承認し而後余を煩はせんと
斯言を承りしに余は余も是れ前同提代と決し
三月廿三日特ニ森脇と共ニ大隈令を出し之を認
し前野の拒言を待たず

一右の件よりつき本林脇田村も余を差入る、証者
ニ大隈令を出し之を承認し之を認めし一旦の事
公森脇等を援助し之を承認し之を認めし
か均を果し難きよりつき証書内より公長を援助を
許し之を承認し之を認めし之を認めし

榛原製

此と今も協定の記を録し之をも証書に添
へ大隈令が出たの上三月廿五日迄一応は
こいふ、こいふ余の病苦痛とては漸々
解決し、余は此職を去る文の協定の記を
任したる。

去る年の借入三萬圓の内余の返却一萬圓の
印刷会社と共証書の添えりし二萬圓の
者金の内六千圓を割りし也
一中央印刷社より四月迄有る料二萬七千圓
未、

一 政界往来に随筆一篇を呈する

一 四月二日圖書院記念日の講演会に臨み市内
協士に就き一時の故の講演を為す、後日謝金
三十圓到来

一 熱河の海虎寺に道遠翁の墓を拓くにつき余
其の計畫、墓石を造り且つ題字を乞ふ

一 四月七日四庫会に参り、其の會館江に於て
一ノ江に於ける田中留吉経書の中居園を以て
四姓制を免す

一 翰墨同好会の今村隆余の随筆を出版

榎原製

之んことを始末兼心して隨筆「早稲田」とも
出版せんと欲す、即ち譲り、其の編者あり
たり、拙り、数月を以て成る、文墨の故談、
余の特に編者に係る、隨筆「早稲田」の初
大よむ、早稲田号載、二年後にも連載の
意を相とす

一 富山會社、坂本嘉次馬の懇話会より
予の孤花の七野梅干記の留卷を毎日徳共冊
題著稿本三、予一冊一卷を割譲す、後日
五百圓の謝金を受く

一 余の蔵本中古経、古文書、名家手簡、名家
 自筆稿本（此類一萬冊）外、古画、紙二十
 餘點（二千五百冊）と安田善次郎と量
 却了ること決し四月十二日一萬冊目録を
 ぬす
 一 早中の社友会より贈る中央礼甲中校長
 辞任金子馬次後任と決す
 一 坪内道村と一七初七在池内黒井、出
 幅を贈る
 一 四月廿八日午後七時半、苦しいの生

棟原製

「活」と放送す

一 中央公論社と謝金る四十圓刊未
 一 書物展望社と余の隨筆も出版
 せんことを需む、秋塊書と約しを張す
 一 徳文社と「竹内封書」余の既刊隨筆
 中「日本沈味」関する稿一篇を編し一冊の
 隨筆を發行せんことを決し張す、五月十日
 一 五月十日「道進」の「文藝」漢日隨書
 を「柳の落葉」と題して「藝術」版に寄す
 一 五月廿二日大隈分館に「道進」稿士の「道進」

をひらく余席上演説を為す

一 他文苑の催しを以て比谷山に接し余と幸
田露伴を中心とする座談会あり比谷
山是洞林内尉津田吉松西打文則木村
新舟等も臨席し余の露伴と二十年
前の舊好を話 五月廿二日

一 五月中文墨の談上段六月初旬隨筆
早稲田脱稿

一 六月一日荒木十畝等と遠足今を偲し
修禪寺に遊ひ石井旋館に宿す

榎原製

一 修禪寺行の翌日余は熱海に赴く是日
追善供養の日也双杯会を以て要する海
花寺に於て是の巻談権云と信也す果て
九月十日に凱入ん即ち帰郷す

一 六月八日お馬両人の續良寛の批評を全
業の日本に投す

一 六月十八日内子愛丈に囑せんとて又傷る
又丈を邀ふ

一 秋月古香の松野大陽雪室の詩集を
贈ふ

一 大日本印刷会社より、後念に七分の配当を
決す。

一 六月廿六日防空演習中の銀座を自動車で
通過中の途中運輸手急遽停車の為の
大立ち止まりを感し一時先神身体各部
に疼痛を蒙り伴打撲の故ありしを演
習の反動に激衝を起し多うと真に恐るべ
しもの也中絶後迄の診察を蒙る。

一 烟草雜誌「細雪」に一稿を寄す。

一 萩中仲三らと「たね寺花と蕪鈔」を

榎原製

鷗心方種物志之冊書也其の

一 七月十一日午後五時半静寂な夜に

大地震被る是方也

一 大石正巳死去

一 内務省久寛と古壽自祝の記念品白磁瓶
瓶自体歌集を以てせり其の七月十日

一 七月廿二日内務省久寛の栗城令三跡を去
壽を祝する演説をなさず

一 市山房の享年五十年紀念出版の為め
文化町神保町一丁目を以て定す。

一十三年間無條件に金付八一に貸附の戻金あり
在りき學生活修儀における既用と費
し更らる早大の職員に無料に貸付する
處も司らるる

一七月廿六日坂本七嘉次馬に借らん世田谷山
木白雲のアトりにてや喧嘩の胸像を檢す
一平凡社の千紙海屋に余が往年千紙旋縁
に載せし書數を借るを轉載せんことを請ふ詔す
一熱海町の湯に居りて返紀念園者故の看
故を揮毫

棟原製

一日訪赤英会併紀念としてかう千十八名入
瑞西心腕時計 弄銅瓶を贈る
一書畫骨董旋縁に名家私印甚多其の一
つを授す八月十日
一平凡社書齋に白鳳伝をぬめりき書齋の
依り其の解説を書きおくる八月十日
一八月十五日村村宗八死云
一文學館後の奥附に換印する一郵便二回
三十美あり千壽印税一割の証書を

領す

一 安田善次や、訓讓の御書、書意部類撰入
二千五百冊と云ふ

一 光長墓の為願後、赴く

一 熱海海蔵寺本堂遷座するに、五十冊書行

一 十月廿八日、歌よむ夜座、松竹の道邊、和歌除

幕式と略す

一 十一月三日、坂口史奉十三回忌の法要、祝文

雅叙同家、席上一味の延懐、漫談をまする

一 熱海山民道邊の記念碑、と海蔵寺二建の

十一月十七日、祝文と略す

棟原製

一 十一月廿三日、早稲田大隈公多額、庭園、改本

嘉波馬蔵、下への御縁の陰、墓中と行ふ

又、会館の人、おのり、妻、族、人、らする

一 十一月十一日、故松田萬吉の芳名、父と母と、赤田川

に、遺族を招き、追悼会をもつ、此夜、公傷

三、四、病床に臥す

一 十一月廿八日、弟二皇子、瑞降誕のめ、おん、御

平定、必略、魚、廿五、年、未、如、おの、り、し、但、一

冊、を、正、み、丸、七、歳、漱、七、ころ、一、通、間、静、外、す

酒、未、酒、と、契、切、と、唐、す、い

一 高山の海軍二十日出版部と印刷四十回分
 村降も印刷の内五十回分
 一 日本圖書館雑誌毎月二余の随筆と紙地
 紙一との請求あり候
 一 庭園と直面の随家の境とあり備録と理む
 大工二人日三と考ふも成る
 一 他文社に於て余の既刊隨筆中日本風味
 の随筆は法蘭西より及但終りては白社内
 の随筆とありてあり但し出版の随筆
 とあり。

横原義

一 他文社の紙屋鷲印の数次余の書は植物類
 鑑と形、植物と根のきの白樺十数株
 を寄せてある、これを一紙とすまは是の前身
 と烟分粒
 一 予本も破格に三冊の隨筆も發行し
 得たり、盛夏日深に三十頁の随筆を數
 日續筆せしむ、お申つらかり、免角左
 老のうき、逸る閑あり、任るも酒
 乾し、性も妙、免りも亦飲む、こん病と
 得たり、所以歎、勢時杯と縁縁すまは六

已正と得たる也

一 坪内道造役り者初稿二冊散乱を實
九と誤別均相致す、寄附す

一 養苑一手法政彫刻文人墨客も
語に印刷成り奥付に換印す此部
為千新也 十二月廿七日 頁數六十七、三十四

一 日本圖書館協會雑誌に兩子巻を
と題する地巻を寄す、こゝの毎月
續の地巻也又續巻の雑誌、昔志
又郷土自撰の一二冊を寄す

棟原製

一 余等が肥の成島柳北碑、在後取
庭園に建設致す、八月陽巻と行ふ
事行く語りす、改二載巻附記

村田

一 日本印刷全社本動能由七分予の受領
ある四七の地巻也

一 関係銀行の自分預金残額四百九十圓行
年吉油)一萬圓預け此より一月以來
小切手は毎月取出し残額は

三十日

晴、朝来花見と筆す。多賀呂司死云の報刊の
坂上来り注射を施して云々。他文に云々。今の隠書
の是書と云々。案井羊一：酒也。旨
す。春成閑派の是書と伝之純：投す
金共千両有代。是之の牛。是領物
如為傳二印。坂に献す。同付。其の柳
北碑。建之。海儀。一。金。而。日。持。夫。今
津。ハ。一。と。云。と。解。す。未。之。去。回。和。男。と。梨
果。洲。来。平。後。教。策。記。世。を。出。と。也。云。

榎原製

三十一日

晴、朝来花見。沈古。伝記の。道。退。西。橋。三。是
運。植。原。正。直。未。亡。人。伝。記。と。云。云。と。出。す。任
及。給。の。に。別。り。二。千。兩。定。給。預。け。入。り。物。記
録。年。一。十。二。月。三。十。一。日。也。是。万。兩。集。五。千。兩
定。給。預。金。物。記。二。の。き。更。と。未。年。大。修。の
手。記。預。け。入。り。利。子。五。兩。の。由。南。洋。預。金。と
入。り。任。友。給。り。預。金。と。五。兩。五。十。四。入。り。物
名。口。本。橋。通。の。お。と。婚。の。一。途。中。一。四。五。の。印
士。入。り。華。の。キ。二。千。ヤ。り。を。支。出。半。は。學

